

- ・ 冒頭、高市早苗氏が自民党総裁に選ばれてどう思うか、というお題と「考える」と「感じる」の違いの話があった。

陽子さんが感じている喜びに比べてみんなが薄い、というコメントが陽子さんからあって、陽子さんがすごく喜ぶだろうなということは想像に難くない話題だったし、一方で私はその感情の発露と比較すると全然感情を露わにしなかったというのは話しながらも思っていた。多分これが知ってるけど実際に切り開いてきたわけじゃないところから一部来ているんだろうなと思う。

一方でどんな人であれまず「女性が総裁（結局総理大臣になったが）になる」という前例を破ったということは本当に素晴らしいものだと思う。としみじみ心から思っているんだが、口にするとあまりにトーンを抑え過ぎたものになっていて言いながら心の中では自分に対して苦笑していた。100分の1未満もこの感情は伝わっていないし、伝え方もよくわかっていない。面白くないんだなあという感想に思われているだろうな、と思うものの全然変えられない。

1つ目のセッションでは久しぶりにクライアントをさせてもらいました。突然逆ギレをする後輩の話。変にプライドが高くて面倒くさいな、と思い、まあ年下の女から指摘されるのは男にとっては面白くないよねと思いながらも当人の性質の可能性もあるかなということを考えていたが、思ったよりも年下の女から指摘というのが大きいのでは、という指摘を受けた。そう言われると思い当たることしかないし、男性の嫉妬というのは大概面倒くさいというのは過去のことを考へるうなづけることしかない。それにもかかわらず可能性として抜いていたのは、そもそも逆ギレしてきた時の内容が、場合によってはバイオテロになりうることをやり、それを指摘したにも関わらず逆ギレしてきたから嫉妬とか小さいこと言ってるんじゃねえよこの野郎、という気持ちの方が強かったなど振り返って思う。性質上突然のことを受け入れるのに困難が生じた、と理解する方がまだ私の中では納得しやすかったのである。それと私ごとに嫉妬するなよ、とは思ってる。

2つ目についてはお子さんに関する内容でしてしまった行動が、過保護なんじゃないだろうかと気にする内容。自分の判断は正しかったん

だろうか、とよりどころがなくて気になってしまふという内容だったと思うが、最後にコーチがきちんと核心になる質問をしていたのがすごく良かったと思う。どうして過保護、と思ったかについてはやっぱりあまりよくわからなかつたのは事実だけれども、クライアントの納得感は得られていたのかなと思う。仮に自分がよくわからない、と思ってもクライアントの納得感につながることをまず第一に考えることの重要性を感じた。基本に忠実。今回ありがとうございました。

(30代女性 千葉県)